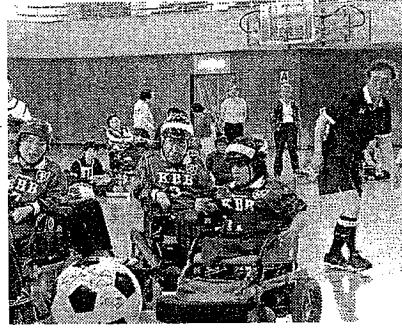


パステルラボ

# 障害者支援事業を拡大

## 「道を音声案内」慶大と研究

コンサルティングなどを手掛けるパステルラボ（金沢市、伊藤数子社長）はIT（情報技術）を使って障害者の生活を支援する事業を拡大する。慶応義塾大学と共同で視覚障害者向けの音声案内システムの研究を始めた。携帯電話を用いた障害者スポーツ大会の生中継システムも全国で導入を進めており、障害者支援を会社の中核事業に育てる考え。



障害者の生活支援にITを活用（電動車いすサッカー大会）

慶大環境情報学部の加藤文俊助教の研究室と共同で、視覚障害者や車いすの利用者が安全に道を歩けるような音声案内システムの研究に乗り出した。出発地から目的地までの、障害者が自ら道を

歩いて「今出発しました」「今右側に〇〇が見えます」などといった音声録音。地図では分からない細かい段差や通行不能の道路など障害者に役立つ情報を盛り込む。加藤助教の研究室とパステルラボは東京の麻布十番のほか、金沢市中心部の片町、堅町、柿木島商店街でも金沢TMO（まちづくり機関）や障害者団体の協力を得てシステムの実用化を目指した実験を始めた。「耳で聞くマップづくりを進め、将来は広い範囲で使えるシステムを開発した

い」（伊藤社長）  
同社が本格展開している携帯電話を活用したスポーツ大会の生中継システムも障害者向けに拡大する。総務省の情報通信四日に東京都多摩市、石川県白山市、静岡市、名古屋市の四地域を生中継システムで接続。インターネットを介して各会場が遠隔で電動車いすサッカー大会を観戦したり、同時にPK戦などの競技を行えるようにする。  
生中継システムは十月の電動車いすサッカー全国大会や北海道内の障害者スポーツ大会、来年の電動車いすサッカーワールドカップなどの導入も決まっている。伊藤社長は「障害者支援という性質上、初めはボランティアの要素が強くなるが、徐々に事業化していきたい」と話している。  
パステルラボは一九九一年設立。同社のスポーツ大会中継システムは昨年、金沢市からITビジネス大賞を受けるなど評価されている。二〇〇五年八月期の売上高は約三億四千万円。